

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立西小学校

【別紙1】

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均(全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		49.1	55	54.7	52.1	52.6
	本年度結果 偏差値平均	48.7	51.3	53.1	52.2	48.3	50.6
算数	前年度結果 偏差値平均		47.9	51.8	53.3	53.9	51.9
	本年度結果 偏差値平均	48.5	51.5	49.8	55.2	50.1	50.8
理科	前年度結果 偏差値平均				51.3	47.9	48.9
	本年度結果 偏差値平均			51.3	50.3	46.9	49.3
全体	前年度結果 偏差値平均		48.5	53.4	53.1	51.3	51.5
	本年度結果 偏差値平均	48.6	51.2	51.3	52.6	48.2	50.2

②全国学力・学習状況調査 正答率平均(第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	70 (101)	59 (92)
本年度結果 (対県比)	70 (101)	62 (97)

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) ●国語科では、説明文の要旨をまとめる(41%)、目的に応じて書く(38%)などに課題があった。 ●算数科では、表とグラフ(43%)、体積(57%)などに課題があった。 ●理科では、かげの様子(58%)、電磁石(12%)などに課題があった。	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語科(県対比101)、算数科(県対比92)ともに、対県比+3という目標に届かなかった。 ●国語科では、漢字(56.3%)、文章の構造と把握(67.2%)に課題があった。 ●算数科では、式や言葉を用いた記述(50.0%)、図の意味や性質の理解(15.6%)、課題把握(40.6%)、割合(29.7%)に課題があった。
---	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標（何を、どの程度達成するか）	達成のための具体的取組（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 ○全教諭が「問いの設定」を意識した授業を実施できるようにする。 ○全教諭が、年間1回以上の研究授業を行い、事後研修を設け、授業力向上を図る。 ○学力調査問題・全国学力・学習状況調査を基に、重点も課題を把握し、全学年で系統的に取り組む。	①NRTの調査分析による実態把握と改善計画の立案 ②学校経営会議及び研究部において改善計画の共有 ③全体研修による目指す授業の共有、学力向上における年間スケジュールの共有を全職員で実施 ④全職員年間1回以上研究授業をし、単元構想シートをもとに、教員間、管理職、指導主事による授業参観実施と全職員による事後研修の実施をする。また、研究授業前には、シミュレーションを行い、再検討するとともに、参観者も授業を見る視点をもつ、授業を参観する。 ⑤全教員による全国学力・学習状況調査の調査分析による実態把握し、学年の系統性を確認して、各学年の授業改善に生かす。課題のある問題の類似問題を作成する。また、全校共通の家庭学習プランを実施し、プリント国語科(主に読む)、算数科(当日に習ったもの)、理科(既習内容)のいずれかに毎日取り組む。ミラシート等を活用して、個別最適型の課題を実施する。 ⑥学力調査問題における正答率の低い問題を重点的に解説するとともに、類似問題やアシストシートをドリルタイムで実施する。また、計算タイムでは、基本の計算問題を中心に実施する。 ⑦学力調査問題を授業時間に設定し、本書同様の実施、解説 ⑧全国学力調査に向けて、本書同様の実施したり、1クラス3人以上の教員が指導、まなびポケットを活用して、再度過去問に取り組め、個人の定着状況进行分析し、課題のある問題に取り組ませる。 ⑨算数科において、図・式・言葉に関連付けて考えられるように全学年で指導を行う。 ⑩放課後補充の時間を設定し、学力の定着に課題がある児童の個別指導を行う。	①6月 ②7月 ③5月および6月 ④年間1回以上 (割り当てられた日) ⑤年間 ⑥年間 ⑦1月～4月 ⑧2月～4月 ⑨年間 ⑩年間	・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点+0.5以上) ・各学期まとめテスト読むこと平均値(全学級80%以上) ・「考えの形成」を見取る活用シート(1・2学期)及び作成した類似問題(3学期)の正答率(全学級80%以上)
【学級・学習集団づくり】 ○全学級において、学習ルールを決め、徹底できるようにする。 ○帰りの会で友だちの良いところを見つけをして、自己肯定感を高める。 ○教科担任制を取り入れ、複数の教師の視点で児童のよさや変化を見つけるようにする。	①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案 ②クラスで目標を決め、達成できた時には、シートなどに評価をためていく。視覚化することで、クラスで統一して頑張ろうとする意欲をもたせる。 ③帰りの会で、友だち(日直)の良いところを称賛するなど、頑張りを認め合える雰囲気をつくらせる。 ④児童の様子(具体的にどのようなかわりを求めているのか)を複数の教員で共有し、教員からしっかりとかわっていく。 ⑤Q-Uの結果を基に分析し、面談を行い、悩みを聞きながら解決したり支援したりする。	①6月・9月・1月 ②年間 ③年間 ④年間 ⑤年間	・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上) ・学級満足度全クラス65%以上

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】 (NRTをうけて) ●国語科では、物語文の場面の読み取り(20～40%)や、説明文の要点や要約をまとめて書くこと(40%)に課題があった。 ●算数科では、グラフの読み取りや考察(通過率10～30%)に課題があった。 ●理科では、影の様子(4年:52%)、電流の働き(5年:22%)、水の流れと川の断面(6年:25%)に課題があった。 (全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語科では、「既習漢字の定着」(正答率37.1:対県比-7.6)や、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討すること」(正答率60.7:対県比-5.8)に課題があった。 ●算数科では、「小数のわり算」(正答率53.9:対県比-15.9)や、「球の直径と立方体の一辺の長さの関係をつえ、立方体の体積の求め方を式に表すこと」(正答率30.3:対県比-7.3)に課題があった。
--

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
【学力向上について】 ・まとまった文章を書くこと ・長文の読み取り ・情報と情報との関連付け ・基礎的・基本的な内容の定着	①全学年全教科等でのR80の実施(必須) ②本校の研究に関わる「論理シート」の効果的な指導と活用。下線等の効果的な活用。 ③関係図や数直線図等、図と式や言葉を関連付けて思考させる指導の徹底。(算数科) ④アシストシートの継続的な取組。	○国語科:単元末テスト「読むこと(思判表)」の学級平均通過率80%以上の学級80%以上及び30%未満の児童3%以下(各学期末) ○算数科及び理科:単元末テスト「思考・判断・表現等」の学級平均通過率80%以上の学級80%以上(各学期末) ○国語科、算数科、理科:「知識・技能」の学級平均通過率83%以上の学級80%以上
【学級・学習集団づくりについて】 ・児童生徒が主体の絆づくり ・学習規律・学習環境の整備 ・支持的風土の醸成	①縦割り班で行う掃除や集団遊びの実施。(活動の振り返りを含む) ②教室内や机上整理の徹底。家庭学習や直しの徹底。 ③互いの良さを認め合う取組(キラリ見つけや学級活動等)の実施。	○本校児童アンケート:「学級の支持的風土に関する項目」肯定的評価80%以上(各学期末)